

実体験にこだわった観察会

ミュージアムフィールドでは毎月『館長と歩こう！観察の林』という自然観察会が開催されています。もとは『森の生態学』を専門とする布谷館長は、NACSJ(日本自然保護協会)の自然観察指導員講習会講師という、もうひとつの顔を持っています。

その布谷館長といっしょにフィールド内の『シイの林』から『アベマキの林』を散策し、主に樹木や植物を中心に観察します。布谷館長の観察会には、あるこだわりがあります。それは解説だけでなく、できるだけ参加者自身が植物などに触れたり、匂いを嗅いだりするような実体験をすることです。



写真：樋口るり子さん

自然の中には遠くから見ているだけでは気づかないことがたくさんあります。木の枝には小さな花や実がついていて、近づいて見ることで、始めて気づくこともあるのです。

布谷館長「植物や生きものの名前を知ってもらって終わり、という観察会にはしたくないと考えています。」

名前だけでなく「その植物はどんな植物なのか？」というお話を聞くことで、参加者の興味はさらに深まります。こうした体験は身近な自然に目を向けるきっかけにもつながります。

この観察会は平成27年度も開催予定です。布谷館長の植物に関する興味深いお話を聞きながら、春のミュージアムフィールドを歩いてみませんか。

平成27年度開催予定

館長と歩こう！ 観察の林

布谷館長といっしょに、ミュージアムフィールドを探検してみませんか？観察の林で、昆虫や植物を観察してみよう！

日時 4月～11月 第1土曜日
(8月を除く) 13:30～14:30

受付 当日先着制
※開始の1時間前から整理券を配布しています

定員 20名 対象 小学生以上

博物館から広がる活動の輪

博物館とは「展示を見るところ」というイメージが多くの人にはあると思います。Mie Muはその枠組みを越え、三重県の自然と歴史・文化に関する興味や関心、目的に応える活動を展開する拠点としても新たに注目されています。

布谷館長「博物館を利用する方法は展示を見る以外にもたくさんあります。利用者の目的にあったさまざまな方法があるということをもっと知ってもらいたいと思っています。」

Mie Muの基本展示室は、延べ床面積1万779㎡に対し、820㎡と1割にも満たない。ほかの博物館と比較してもコンパクトなものです。多様なニーズにあわせた博物館の利用の仕方があるとの観点から、

誰もが自由に利用できる交流創造エリアが広く設けられ、多くの人でにぎわっています。

交流創造エリアには活動の中心となる『学習交流スペース』をはじめ、『こども体験展示室』、『資料閲覧室』などがあり、それぞれの目的に沿って利用することができます。『三重の実物図鑑ルーム』やMie Muのシンボル『ミエゾウ』の全身復元骨格などもこのエリアに配置されていて、無料で利用することができます。

誰でも気軽に立ち寄って楽しみながら学べる新しい博物館。親子でイベントに参加したり、講座に参加して専門的な知識を深めたりするだけでなく、学芸員が三重のさまざまな話題に関する相談や、利用者の活動・交流のサポートもしてくれます。

展示を見るだけじゃない！ 博物館をもっと楽しむ方法

『レファレンスカウンター』



学芸員がレファレンスカウンターに当番制で常駐しており、博物館に収蔵される資料の閲覧やそのほか質問・相談などにも対応してくれます。

『三重を知る 1,000冊』



学芸員のおすすめや展示と関連する本が並んでいます。ゆっくりと本を読みながら過ごすことができます。